

日高地区の現状とこれから

齊藤 京・朽木 謙作・福田 智也・柳原 友希

はじめに

私達は浜田市弥栄町日高地区において景観観察、ヒアリング調査を行い、その結果を基に日高地区における生活の現状、食文化、農業の諸問題を研究した。

基本情報

- ・日高地区は弥栄地区の東部にある地区で昭和35年に発足した。
- ・発足当時は**31世帯に135人**の方が生活していたが、現在では**16世帯、37人**にまで人口が減少してきている。
- ・日高地区に住んでいる方のほとんどが50歳以上で、全体の**41%は高齢者である**。

農業

- ・日高地区の16世帯のうち、1世帯が専業農家で、その他の世帯はすべて**兼業農家**である。
- ・機械を持っている人が持っていない人たちに貸出してお米を作っている。
- ・野菜は季節に応じた様々な種類の野菜を作っており、作った野菜は自分たちで消費したり、近所のひとや親族にあげたり、農業協同組合に売ったりしている。
- ・**後継者不足**が深刻な問題だが、弥栄村では1998年から**農業研修生制度**を導入し今までに28人の研修生を受け入れてきた。

生活

- ・日高地区では、**水や空気がおいしく、時間がゆっくりと流れていく**ことが特徴だ。
- ・冬には雪が**50～60cm**も積もることがあり、除雪作業では除雪機を使用している。
- ・主な交通手段は**車、バス**だ。食材の買い物に困ることはないが、洋服の買い物には困るようだ。以前は村に旅館や雑貨屋があったが、若者の地区外への流出や少子高齢化などの人口減少に伴い現在では**店が減り、学校がなくなってしまう**ている。

食文化

- ・白菜や大根を漬物にしてそこにゆずを加えて食べたり、お焼きや玄米モチを作ったりしている。さらに、味噌やこんにやくなども作っているようだ。
- ・御節には、クジラ(酢味噌で和える)・炒り子の佃煮・黒豆など10品ほど作るようだ。
- ・他にも、角寿司(田舎寿司)を普段から作っていたり、何かの行事にはチラシ寿司を作ったり、おはぎや鶏肉ごはん、クジラごはん、押し寿司なども作っている。

まとめ

この調査を通じて私たちは過疎地域における問題を再認識できた。中でも人口減少が顕著であると考えた。それに伴う後継者問題や住民が気軽に利用することができるお店や施設が少なくなっている。日高地区において学校はなくなっている。また、地域交流の機会も少なくなり、ほかの地区とは祭りを通してくらいであった。これからの課題としては、人口増加や他地区との交流の機会を増やすことではないだろうか。